

防災情報などの確認

避難情報等発令のタイミング

警戒レベル	避難情報等	避難行動等	河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)		参考
			防災気象情報(警戒レベル相当情報) 浸水の情報(河川)	土砂災害の情報(雨)	
高	5 緊急安全確保 災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令 [寄居町が発令]	既に災害が発生している状況。命を守るための最善の行動をとる。	5 相当	氾濫発生情報 大雨特別警報 (浸水害)	これまでの避難情報等 災害発生情報
	4 避難指示 立ち退き避難に必要な時間や日没時間等を考慮して発令 [寄居町が発令]	速やかに避難先への避難を完了する。避難先までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難する。	4 相当	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報	避難指示(緊急) 避難勧告
	3 高齢者等避難 [寄居町が発令]	避難に時間を要する人(高齢者、障害者、乳幼児等)とその支援者は避難する。その他の人は、避難の準備を整える。	3 相当	氾濫警戒情報 洪水警報 大雨警報	避難準備・ 高齢者等避難開始
	2 大雨・洪水注意報 [気象庁が発令]	避難に備えて、ハザードマップ等で自らの避難行動を確認する。	2 相当	氾濫注意情報	大雨・洪水注意報
低	1 早期注意情報 [気象庁が発令]	災害への心構えを高める。	1 相当	-	早期注意情報

気象警報等への注意

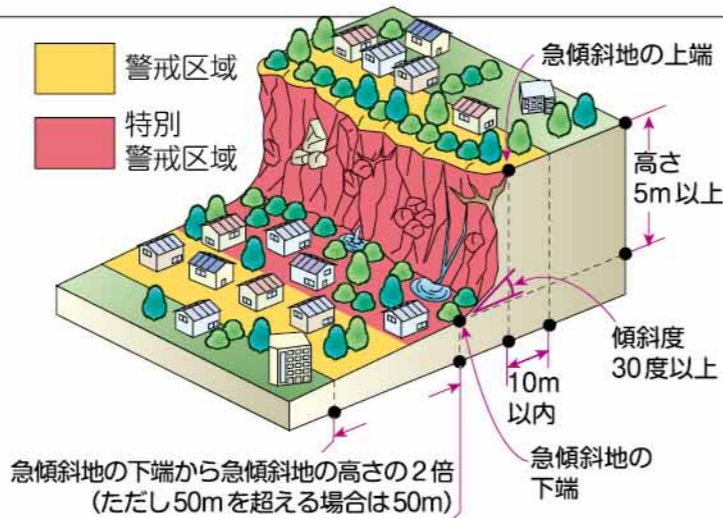
警戒レベル・避難指示等の避難情報は、気象状況や被害状況等を総合的に判断して発令されるため、気象警報等が発令されてもただちに避難情報が発令されるとは限りません。「大雨警報」や「洪水警報」等が発令され、身の危険を感じたら、すぐに避難を始めましょう。また、「土砂災害警戒情報」は土砂災害発生の危険度がさらに高まったとき、「大雨特別警報」は台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合に発表されます。このほかにも、「記録的短時間大雨情報」や線状降水帯の発生を伝える「顕著な大雨に関する情報」にも注意が必要です。土砂災害は、地中にたくさんの雨が貯まったところに強い雨が降ると発生しやすくなるという特徴があるため、早めの避難を心がけましょう。

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)の仕組み

がけ崩れは、地中にしみ込んだ水分によって土の抵抗力が弱まり、雨や地震等の影響から急激に斜面が崩れ落ちる現象です。がけ崩れは突発的に発生することが多く、逃げ遅れた場合に死者が出る割合が高くなるため、早めの立ち退き避難が重要です。

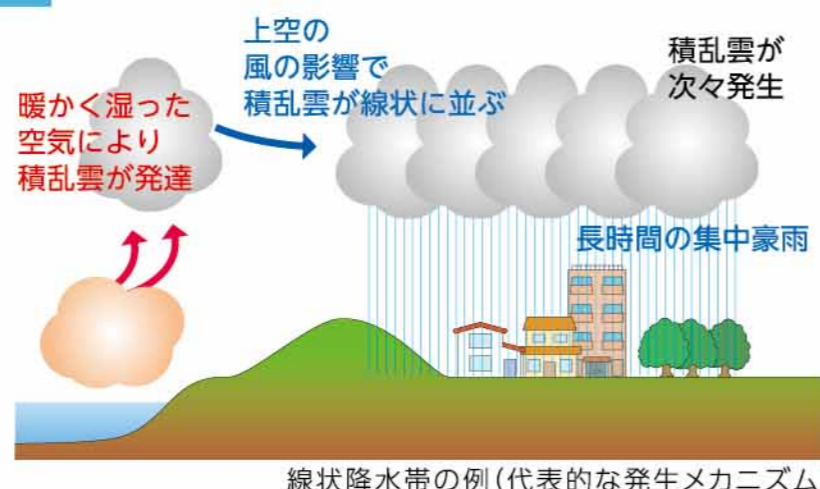
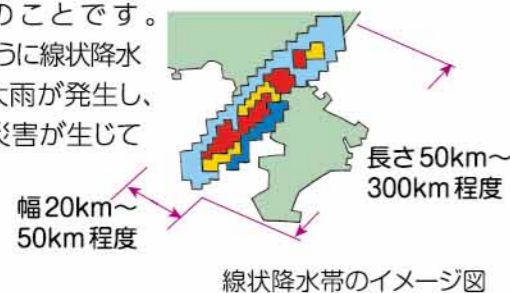
土砂災害警戒区域(イエローゾーン)
急傾斜地の崩壊等、土砂災害が発生した場合に、住民等の生命・身体に危害が生じるおそれがある区域

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)
建築物が損壊して、住民等の生命・身体に著しい危害が生じるおそれがある区域



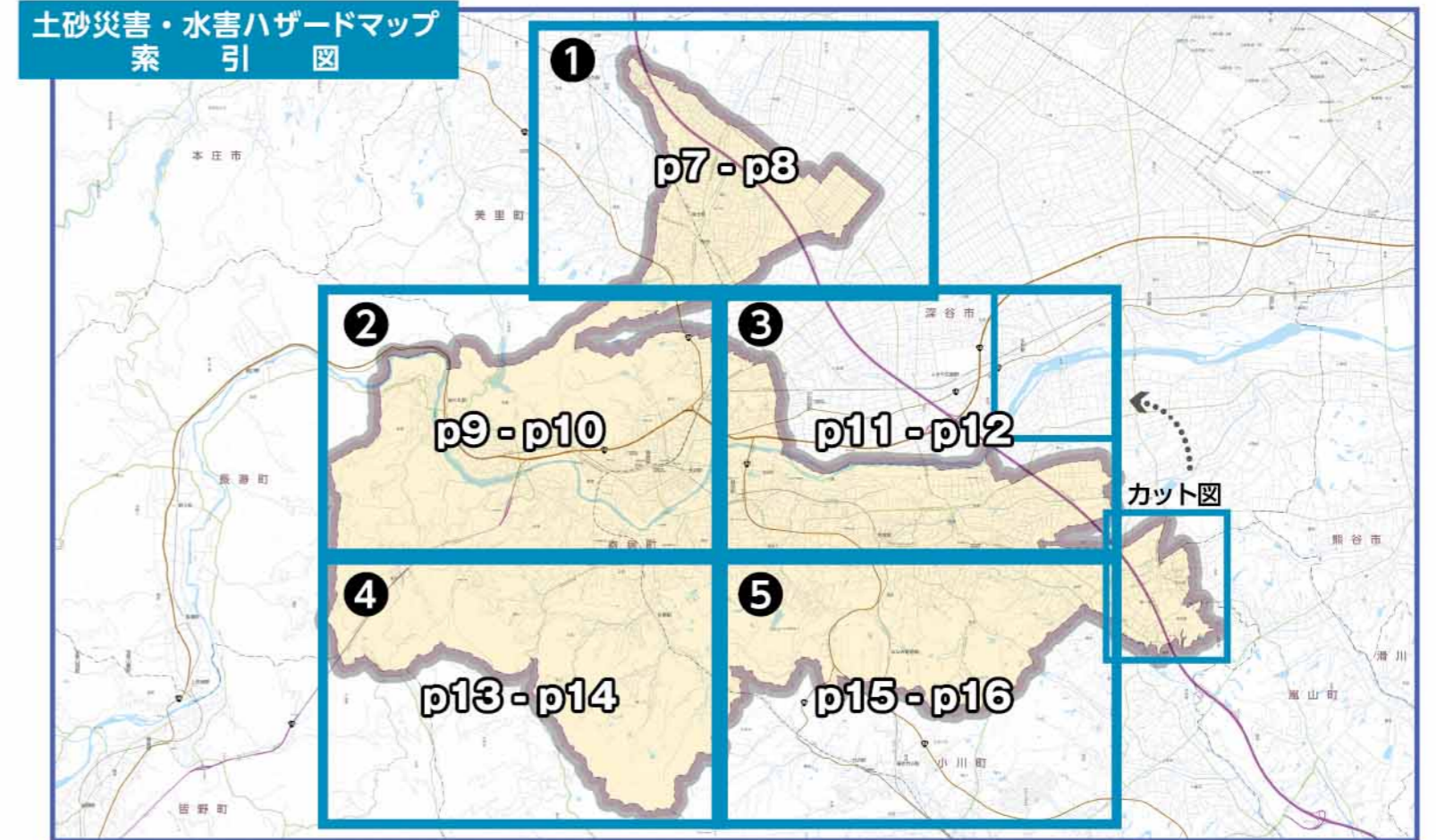
線状降水帯の仕組み

線状降水帯は、次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなし、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出されます。線状に伸びる長さ50~300km程度、幅20~50km程度の強い降水をともなう雨域のことです。近年、毎年のように線状降水帯による顕著な大雨が発生し、数多くの甚大な災害が生じています。



土砂災害・水害ハザードマップとは

この土砂災害・水害ハザードマップは、被害を及ぼすと想定されている土砂災害や河川の氾濫等を反映したものです。土砂災害・浸水のおそれがない地域、避難先や避難経路を事前に確認しておくことで、自分や家族の安全確保につながります。



[測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 3JH5 849]

ハザード情報の見方



家屋倒壊等氾濫想定区域

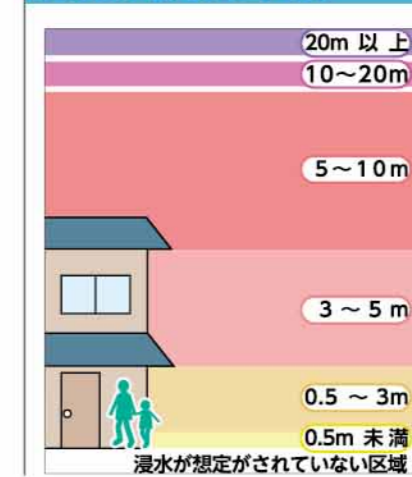
家屋倒壊等氾濫想定区域は、洪水災害により家屋等の倒壊・流失のおそれがある範囲を示しています。この区域内での避難行動は、原則として立ち退き避難になります。



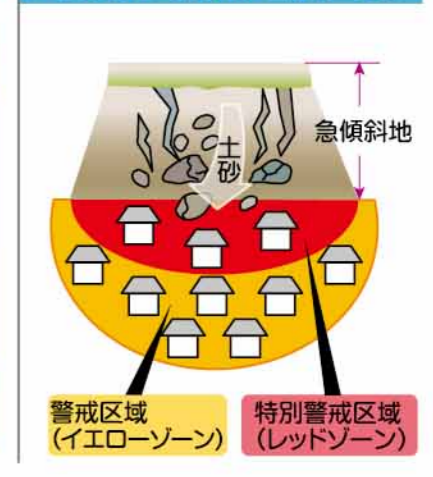
堤防が決壊し、河川から流れ込む水の力により、家屋の地盤が流出し倒壊するおそれのある区域



浸水深の想定と目安



土砂災害(特別)警戒区域



水害時の在宅避難・垂直避難

水害時の避難行動は立ち退き避難(水平避難)が原則ですが、次の3つの条件を満たしている場合は、浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です。

- ① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
- ② 浸水深よりも居室が高い位置にある
- ③ 浸水しても水がひくまで我慢できる
(水・食料などの備えが十分にある)

